

県指定史跡の池之平御座岩遺跡

岩塊群 75年前の原風景

地元財産区
土地改良区

大がかりな伐採整備

茅野市郊外の白樺湖畔にある県指定史跡「池之平御座岩」(遺跡)(1962年指定)は大を経て樹木が茂り岩も見えない。大きな岩が特徴だが、長い年月になったため、地主の柏原財



湖や対岸も開けて、明るくなった伐採後の池之平御座岩遺跡



樹木が生い茂り大きな岩もほとんど見えなかった伐採前

産区と池の平土地改良区は、県や市の補助などを活用して大がかりな伐採整備作業を行った。約75年前に湖が農業用ため池として造られた当時の風景が戻った。財産区と改良区は、一帯で進められている市の環境整備事業とともに、新たな白樺湖の名所になるよう期待している。

白樺湖畔の 新名所期待

同遺跡は湖北岸のほぼ中央から緩傾斜で湖心に突出した安山岩の岩塊群1800平方メートル。1953年に湖の排水口が壊れ、干上がった際、現れた岩穴を調査すると、先土器時代の石器や、縄文早期から晩期にかけての石器、土器、土偶、耳飾り、弥生式土器、須恵器、幣玉、鉄器など、古代から歴史時代に至る遺物も発見された。

幣玉は、この岩を磐座として峠神に旅の安全を祈願したものとされる。また、武田信

玄が川中島侵攻の時に岩の上で休憩し軍団を整えたとも伝わる。

場所は観光センターの近くで、間もなく完成する屋外集会施設と湖の間の遊歩道の脇。伐採作業は13、17日に行われ、雑木を含む40〜50本を撤去。整備後は、散歩の途中ですぐ目に入り、立ち寄る人も増えている。

群馬県富岡市から訪れた野村宏幸さん(63)、清美さん(65)夫妻は「白樺湖は20代から来ていて、最高ににぎやかだった頃も知っているが、武田信玄が座った岩があるとは知らなかった。歴史を感じます」と話していた。

同センターの篠原啓郎所長

(73)は「県史跡ということで伐採をしなかったが、地元で行っていいことが分かり計画した。蓼科山をバックにした新しい写真映えスポットもできた。昔のようににぎわってもらいたい」と願っていた。

(武井葉子)